

人工呼吸器回路の接続トラブルに起因した医療事故について

この度、当院において、医療事故が発生しましたのでご報告いたします。
医療事故の発生につきまして、患者様とご家族の皆様には多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますこと、心より深くお詫び申し上げます。

今回のような決して起きてはならない医療事故を起こしてしまったことを、きわめて重く受け止めており、病院としての責任を痛感しております。今後は、二度とこのような医療事故を起こさないよう再発防止に努め、患者様の安全と信頼回復のため、職員一同、全力で取り組んで参ります。

【医療事故の概要】

難治性疾患のため当院で人工呼吸器を使用して入院療養を行ってきた患者様について、令和6年2月に人工呼吸器回路の接続が外れ、発見が遅れたことにより、一時心肺停止となりました。心肺蘇生を行い、救命し得た後、回復傾向にありますが、現在も後遺症が残っている状況です。

当院では、外部有識者委員を含む拡大医療事故検証委員会を設置し、原因究明、再発防止策について検討を行いました。人工呼吸器回路の接続が外れた原因は、接続確認を目視で行っていたために、接続の緩みに気づけなかったこと、また、人工呼吸器の回路の接続が外れていることを知らせるアラーム及び生体モニターアラームへの対応が遅れたことで今般の事故が発生したと考えております。

【再発防止策】

当院は職員に対する医療安全に関する定期的な研修を強化するとともに、以下の再発防止策を講じて参ります。

○定期的な呼吸器回路の接続確認の徹底・マニュアル化

人工呼吸器回路がしっかりと接続されていることを確認するため、マニュアルを改訂して定期的に手で触って確認することに加え、離床時など体動により接続が緩む可能性がある際にも、手で触り確認することとしました。

○病棟内でアラームが容易に検知できるシステムの導入

病棟内のどこにいても手元でアラームを確認できるシステムを令和6年11月末から運用しています。

○看護業務の見直し

看護チームの担当範囲を分けてケアを行い、どのアラームが鳴ってもいずれかの看護チームが速やかに対応できるように看護業務を見直しました。

○モニターアラームコントロールチームの立ち上げ

患者個々の状態に合わせたアラーム設定にすることで、緊急性の高いアラームに速やかに対応できるようにするなど、再発防止にかかる検討チームを立ち上げて取り組みます。

○病棟間の応援体制の構築

早急な処置が必要な患者が病棟に複数発生し、対応できるスタッフが足りないときは、隣の病棟や医師が応援できる体制を強化しました。

令和 6 年 12 月 11 日

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院
院長 久留 聡